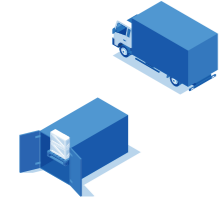


Low-carbon materials and containers

## CLプロジェクトから生まれた / 低炭素型の資材や容器

実際に開発・実用化されている資材や容器と、その環境効果の事例をご紹介します。



### 再生プラ箱

ロット製品をレーンに流す際に使われる「通い箱」を、廃自動車由来の再生プラスチックを用いて新開発。従来通りの耐久性を維持しながら、30回以上繰り返し使えます。その後も廃棄されず素材へもどり、新たな容器に再生可能。この容器に切り替えることで温室効果ガス排出量を30%削減できます。

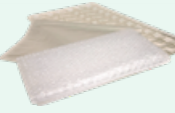
GHG 排出量削減率  
**30%**



### 強化段ボール

耐久性に優れたオリジナルの強化段ボールを開発。10回以上繰り返し使用する事で段ボールの廃棄量をなんと90%も削減！優しい木のイラストもこだわりポイントです。テープを使わずに梱包できるので、開封や折り畳みもラクラク。作業の効率化にも貢献します。

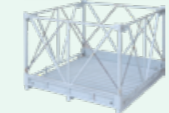
段ボール廃棄削減率  
通常比 **90%**



### 再生PE梱包資材

市場で回収された廃プラスチック類を再ペレット化し、それを原料の78%に使用。試験評価を重ね、厚みを抑えながらも従来の資材と変わらない品質と強度を実現しました。この再生PE梱包資材に切り替えることで、温室効果ガスの排出量を60%削減することができます。

GHG 排出量削減率  
**60%**



### 次世代モジュール

荷物の運び出しに使われるモジュールの構造を工夫し、少ない鋼材で同強度のモジュールをつくることに成功。製造時の温室効果ガス排出量を10%削減します。ホルトレスで組み立てや折り畳みの工数を大幅に削減できるほか、ハイキューブ(背高)コンテナに適合しているので輸送効率もアップします。

GHG 排出量削減率  
**10%**

## TOYOTSUが目指す 循環型物流のスタンダード

## CIRCULAR LOGISTICS 循環型物流

# CL PROJECT

## Vision 2030 つくるはこぶつなぐ

### 未来を守る！私たちと一緒にカーボンニュートラルな物流を！

豊田通商のグローバル部品・ロジスティクス本部では、Vision2030として【「つくる」「はこぶ」「つなぐ」を変えて未来社会への責任を果たす】を掲げています。循環型の自動車部品サプライチェーン構築を目指すべく、パートナー様を随時募集中。私たちの取り組みにご興味のある方は、ぜひ下記までご連絡ください。

どこで買えるか、どこで相談できるか、トヨタブランドに関することなら、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ

TOYOTSU FACES 編集デスク

toyotsu-faces@app.toyota-tsusho.com

これらCN化において大きな課題となるのが、品質担保と社内外からの理解です。物流において最重要視されるのは、品質を損うことなく納期通りに確実に納品すること。資材や容器の切り替えに伴う不安を払拭できるよう、CLプロジェクトでは検証を重ねて品質を担保しています。また、切り替えに伴うコストアップ等にも納得いただけるよう、無くす、減らすの改善と共に、CN化の必要性や意義を伝える動画も制作。丁寧なコミュニケーションを通じたパートナーの拡大にも力を

を入れていきます。CLプロジェクトの開始から約三年。メンバーの間には、環境への責任感はもちろんのこと、それ以上に新たなことに挑戦するポジティブなやりがいを感じています。「地球の未来にとって正しいことをしている実感がある。自分の仕事を肯定できる」と語るメンバーも。こうした熱意をエンジンに、仲間を増やして取り組みを加速させ、豊田通商は未来の物流のスタンダードを築いていきます。  
※国土交通省「静脈物流(排出物)に関する調査レポート」を元に算出



## 物流を変えて、未来を変える

日本の物流業界から一年間に出る廃棄物量は、約一億二千万トン※。世界がサステナブルシフトを加速させる中、グローバル規模で自動車の物流を行う豊田通商にもまた、物流の在り方を率先して変えていく責任があります。そこで2021年に始まったのが、循環型物流を目指す「CLプロジェクト」です(Circular Logistics)。石油由来梱包資材の廃止や新たな物流容器の開発などに取り組み、2030年までに段階的に循環型物流を確立する計画です。現在は主に二つのテーマから取り組みを進めており、一つが「資材のCN(カーボンニュートラル)化」、もう一つが「容器の循環」。資材のCN化では、輸出で使用する梱包資材をポリエチレンから再生原料へ切り替えるほか、パートナー企業と協業し新素材の開発にも取り組んでいます。容器の循環では、繰り返し使える強化段ボールを開発したほか、廃自動車由来の再生プラスチック箱も開発しています。